

Moving

2017.2

ムービング

CONTENTS

おすすめ講座紹介

P12

お知らせ

P10

講座・講演会報告

P7

誌上講座

P6

生涯を通じての女性のメンタルヘルス
第3回「中高年期編」
小倉記念病院 緩和ケア・精神科
医師 奥野 香苗

働き女子の夢をかなえる
キャリアアップ講座

講座報告

P4

男性の働き方、暮らし方意識変革
男の家事が命を救う?!
東京大学大学院総合文化研究科
教授 瀬地山角

特集

P2



特集

男性の働き方、
暮らし方意識変革

男の家事が 命を救う?!

女性活躍推進法ができ、男女共同参画の世界で改めて、「女性の活躍」なるものが強調されることとなった。「ちょっと待て、女だけの問題だというのはかなり違和感がある」と政府には異議申し立てをしたいが、その手前でやるべきことをやっておこう。

今日のお題は「女性の活躍」ではなく、「男の問題」であり、それこそまさに、私の感じる違和感と通じるものなのだ。

表1

男女の家事・育児時間比較 (週平均1日)

	男	女
共働き世帯の家事関連時間	39分	4時間53分
就学前の子を持つ世帯の育児時間	37分	3時間15分

資料：総務省統計局「社会生活基本調査」(2011年)

表1を見ていただきたい。いかに男性の家事・育児参加が少ないかが見て取れる。このような極端な男女間の差は、もはや「社会的に」是正されなければいけない水準にあると私は考える。「社会的に」とは、「ウチは専業主婦なので、そういう約束上の分担だから」という議論を越えて、「社会的に」踏み込むべき課題だと言いたいのだ。

私がよく使っているたとえで説明しよう。いま植林をする林業者と、植林をしない林業者が、競争をしたとする。これは必ず植林をしない林業者が勝つ。相手の林業者が植林をしている間も木を伐り続けることができ、木1本にかかる工賃が安くなるからだ。消費者が何も知らなければ、植林をしない林業者の安

東京大学大学院
総合文化研究科 教授

せちやま かく
瀬地山 角 さん

プロフィール

1963年生まれ、奈良県出身。
東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了、学術博士。北海道大学文学部助手などを経て、1994年東京大学助教授。2009年より現職。この間に韓国のソウル大学に留学し、ハーバード大学、カリフォルニア大学バークレー校で客員研究員。専門はジェンダー論、主な著書に『お笑いジェンダー論』『東アジアの家父長制』（いずれも勁草書房）など。10年間2人の子供の保育園の送迎を一手に担い、今でも毎日の夕食作りを担当している。子連れで渡米し、父子家庭も経験した。



い木のみが売れ、やがて日本中の山がはげ山になる。そして30年後に私たちはその保水力を失った山林からの大水害という形で、30年間植林の代金を払ってこなかったことのツケを一気に払わされる。実は、私たちは植林をする林業者の高い木を1本1本買うことで、30年後の大水害を防ぐコストを積み立てていたのだ。

男女の問題と何の関係があるのかと思われたかもしれないが、植林をしない林業者を男性労働者、植林をする林業者を女性労働者、植林を子育てと置き換えてみてほしい。なぜ企業が、女性よりも男性を雇う傾向があるかがわかる。つまり表1の家事労働時間の男女差を考えれば、企業は女性を雇ったときには、家事・育児の時間があるために、子どもが熱を出した時の対応、夕食の準備などを考えて、夜遅くまで働かせることはできないと考える。育児休業もとるのは圧倒的に女性が多いので、共働き世帯でも育児全般を主に女性が担っていることになる。ところが男性は、あたかも背後に子どもや要介護の高齢者はいないかのごとく働く。ほとんど家事をしないために、残業もさせやすい。植林、つまり子育てのコストは、女性労働者の肩の上のみ加算されているように、企業には見え、したがって植林のコストがかからない、男性労働者を雇いたいと考える企業が多くなってしまうのだ。

しかしこうした状況が長く続けば、植林のコストが払われないうまま、労働力という木が売れている状態が続くこととなり、日本中がはげ山になる。これが少子化という現象だ。つまり今の日本の職場は「植林をしながら働く」ということが難しくなっており、実は企業

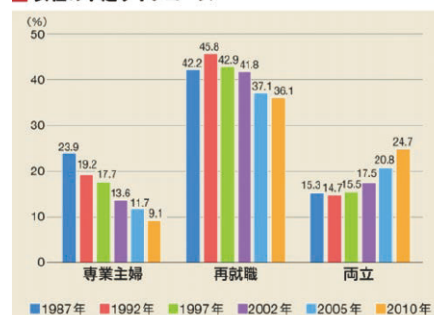
や役所が、次世代の育成に必要な植林のコストを、応分に負担していない状況が長く続いているのだ。子育てのコストが、女性と男性との間で対等に分担されていない、という問題が解決しない限り、逆に言うと、男性を雇っても、女性を雇っても、「背後には子育てのコストがある」と考えられるようにならない限り、この問題は完全には解決しない。

夜遅くまで人を働かせることは、植林をしない林業者の木を買い続けているのと同じ現象で、短期的には、そして一企業にとっては、一見メリットになるように見えても、社会全体としては、次世代の労働力を再生産できない、という大変大きなデメリットを抱えることになるのだ。

これを男性の側から考えよう。2016年の自殺による犠牲者数は21,898人(警察庁統計)、実はその約7割が男性だということをご存じだろうか?1998年に自殺が急増して以降14年連続して3万人を越えた時期があるのだが、これは40~50代の生活上・経済上の理由による男性の自殺が急増したことが原因だった。1998年というのはアジア経済危機の翌年。家計を支える大黒柱という役割は今の日本の男たちにはすでに重すぎるのだ。

図1

■ 女性の予定ライフコース



資料：国立社会保険・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査」(2010年)
※対象は18~34歳未婚者

一方で若い女性たちも図1に見るように専業主婦になるとは思っていない。20代・30代の独身女性で専業主婦になると思っているのはもはや1割未満である。ところが日本は出産に伴う女性の退職が、女性のキャリア形成において非常に大きな障害となっている社会である。表1のように、共働きや就学前の子

どものいる世帯で、男女の家事・育児分担にこれほど大きな差があれば、確かに女性が正社員として働き続けることは難しいだろう。女性が中断再就職で、パートなどの非正規の職につくケースが多いのはこのためである。

一方女性の正社員の平均年収は約350万円。40代以降に正社員でいる層が非常に少ないために、統計的には少し低めに出るし、地域によってもばらつきはあろう。ただ正社員の給与が低い地域はその分土地代が安いので、350万円より低くても(もしくは高くても)、女性の正社員の収入が家計にもたらすゆとりが極めて大きいことに変わりはない。

350万円と仮定すると、出産後定年までの約30年で1億円以上稼ぐことになる。つまり女性が出産退職をせずに、正社員で働き続ければ、ジャンボ宝くじは必ず当たるのだ。そこで女性に向かって「家のことはちゃんとやった上で働いてね」はどう考えてもNG。逆の立場になってほしい、できるわけがない。

だとすれば家事を「手伝う」ではなく、シェアする。子どもが小さいときにはもう少し時間がかかるが、仮に男女2時間ずつの家事で女性の正社員での就業が可能だとすれば、男性の2時間の家事が、350万円の追加収入をもたらすことになる。1年350日としてざっと計算すると、男性の家事の時給はなんと5000円!絶対に自分の残業代の時給よりも高いはずだ。

そもそも月に30万円も残業代がつくような働き方を毎月続けていたら、翌年にはあの世だろう。だから残業なんてさっさと断って、家に帰って夕食を作り妻の帰りを待つ方が、家計としてははるかに合理的だし、何よりも男性を「大黒柱」としてのプレッシャーから解放してくれるのだ。

男性の積極的な家事育児参加は、女性の正社員での就業を可能とする。女性の正社員での就業は、男性にかかる「大黒柱」としての圧力を、肩を貸すようにして和らげてくれる。これで男性は過労死や経済的理由による自殺から逃れることができる。

ここで「女性の正社員での就業」という中間項を飛ばして見てみよう。つまり男性の積極的な家事育児参加は、もちろん家計を助けるけれど、最終的には、男性自身の命を救うのだ。夫が倒れて長期療養になったときに、妻の正社員での就労がどれほど力強いサポートになるかなど、少し考えればわかるだろう。「女性の活躍」を積極的に応援することは、実は男性の命を救うことだということに、もっと多くの男性に気がついてほしい。

女性社員が会社をかえる 働き女子の夢をかなえる キャリアアップ講座

平成28年9月17日～10月29日 隔週土曜日(全4回)

公開講座(1)

平成28年9月17日(土)
13:30～15:45

今年度は、ロールモデルとして、日本電気株式会社の長谷部期子さんをお招きして、トクと、長谷部さんに加えて本講座修了生の吉水請子さん(3期生)、夏井泉さん(1期生)にもご登壇いただいてパネルディスカッションを開催し、「必要とされる人になるための考え方や習慣、仕事術」について本音で語っていただきました。

第1部 「しなやかに創る新時代のキャリア～どの職場でも、いろんな人がイキイキ働くために～」

【講師】日本電気株式会社(NEC)南関東支社 神奈川公共第二営業部長 長谷部 期子さん

実は入社時、私には管理職になりたいという気持ちがありませんでした。当時、女性の総合職が少なく、配属初日、支社長に「女子の営業はいらなかった」と言われ、いきなりやる気を失いましたが、その言葉に奮起し「支社長を見返してやろう」と思ったのがキャリアアップのきっかけになりました。上司などの周りがしっかりと育ててくれたおかげもあり、今は管理職として仕事をしています。

子育てをしながら仕事をするためには、仕事と同様に、いかに周りから協力が得られるかが重要です。日頃は自分自身の対応力で乗り切りますが、いざ困ったときには、周りの人たちが助けてくれました。周りの人たちに育ててもらった子どもたちは、とても順応性ができます。仕事も子育ても、家族や職場などの応援者のおかげでやってこられたので、周りの人たちに感謝しています。

第2部 パネルディスカッション「私が決める働き方～女性活躍の新時代にむけて～」

【進行】(有)サイズ・コミュニケーションズ 代表取締役 高見 真智子



【パネリスト】

極東ファイ株式会社
取締役オムニチャネル
戦略室室長 兼
マーケティング部長
よしみず しょうこ
吉水 請子 さん



【パネリスト】

株式会社イ・キッズ
キヤナルシティ博多店
店長
なつみ いずみ
夏井 泉 さん



【パネリスト】

日本電気株式会社(NEC)
南関東支社
神奈川公共第二営業部長
はせべ のりこ
長谷部 期子 さん

《吉水》人は思っていることをうまく言葉にできないことがあります。従って、例えば、送られてきた言葉ひとつにしても、心の中はこうなのだとしっかりマーケティングしていくことで、相手のニーズに答えることができ、信頼が得られると思っています。上司にしても私に仕事を発注してくれるお客様だと考えると、上司との関係性をよくするためには、上司をマーケティングして、上司のことをどれだけ理解できるかというのがすごく重要だと思っています。

《夏井》6年前にこのキャリアアップ講座に参加した時は名刺交換すらできず、職場でも空気を読めないような状態でした。この講座で大変刺激を受けて、今は店長として勤務しています。一番大事にしていることは「すべては人」だということです。人材育成こそ面白く、スタッフが面白く働いているのか、成長できているかと気にかけています。母になった経験というものもあるかもしれませんが、妻めのことを中心掛けています。そして「どうせやるなら夢になってやりましょう!」というメッセージをいつも周りに送っています。

《長谷部》私の周りにはロールモデルがいなかったもので、誰かに比較されることなく、のびのびと仕事ができたくのが良かったのかもしれません。逆に自分自身が道を開いてきました。ロールモデルがいても、その人はその人だと感じてほしいと思っています。「長谷部さんになれない」と言う後輩たちがいて、とても寂しい思いをさせていただきました。私と同じようになる必要はなし、100人いれば100通りの人生、100通りのプロセスがあるので、ロールモデルという言葉の使い方を間違わないでほしいと思っています。

【パネリスト】

造田 美穂 さん

4日間も研修?長いな...休みの日に面倒くさいな...と実は思っていました。しかし、参加した後の感想としては、面白かったし、ためになったし、いいことづくし!本当に楽しい研修でした。4日間すべて内容がとてよかったので、会社の朝礼や雑談等でもすぐに披露させていただいたほどです。また、何よりいろいろな企業など働く女性の方々とたくさん交流できたことが、私にとって一番の財産となりました。このご縁に感謝です。

【パネリスト】

登島 貴子 さん

これからのキャリアや人生設計を考えるための基礎知識を学びました。すぐに役立つ、継続することで自分の強みになるようなカリキュラムばかりでした。一緒に参加された方たちの業種はさまざまでしたが、悩みや不満点、関心事に多くの共通点があることが分かってすぐに打ち解け、和気あいあいの講座でした。講座が終了した後情報交換などで集まる場を作っただけなのというので、次に会える機会が楽しみです。

【パネリスト】

香月 友紀子 さん

結婚と出産を経て、漠然としていた自分のキャリアについて改めて考えたいと思い受講しました。女性の働き方に関する社会情勢や講師の実体験を聞き、「自分はそのようなキャリアを形成したいのか、そのためにはどうすればいいのか」がクリアになりました。また、ワーキングマザーの講師や他の受講生の話を聞いて、子育てと仕事は両立できること、働きながらの子育てを後ろめたく思わなくて良かったことが分かり、勇気づけられました。

【パネリスト】

桃井 香織 さん

今回会社からの紹介で受講させていただきました。最初は休日という事もあり、正直少々面倒な気持ちもありましたが、実際参加してみると、現在活躍されているロールモデルの方の魅力的な講話、会社でも活用できる充実内容、いずれもわかりやすく、興味をもって取り組む事ができ、色々な発見もありあっという間の全4回でした。また、他企業の参加者の方々と交流できること、働きながらの子育てを後ろめたく思わなくて良かったことが分かり、勇気づけられました。

夢をかなえる
キャリアアップ講座に
参加した

働き女子

の声

この講座も6目を迎えました。企業等で働く女性たちが、リーダーとしてその役割を拡大するためのスキルアップとキャリア開発を支援するとともに、組織を超えた働く女性たちのネットワークづくりができました。今後フォローアップ講座も開催しながら、1期～6期までの期を超えた働く女性ネットワークの拡大を目指します。



今年度の
受講生
33名

公開講座(2)

平成28年10月29日(土)
13:00～15:30

元AERA編集長の浜田敬子さんをお迎えし、女性活躍に取り組む企業、女性が期待される理由などについてお話していただきました。また浜田さんと、女性活躍を推進する地元企業から、株式会社スターフライヤーの松石禎己さんをお迎えした対談が実現。経営的視点から見た女性の役割や期待、女性活躍の先にある未来について考えました。

第1部 講演「女性にやさしい企業からその先へ」

一生懸命仕事をしていれば、やっぱり上昇志向が出てきます。自分のキャリアの限界を決めず、ぜひ女性も管理職を目指してほしいと思います。女性の管理職が増えたと働く環境が必然的に変わらざるを得ません。女性の能力を発揮するためには、長時間労働がベースになっている企業の働き方自体を変えるしかないと思ひ、私が編集長になってからは会議の時間を減らし、評価制度を見直しました。長時間かけて働いている人は評価せず、短時間で生産性を上げた人を評価する。そういうふうに変われば、どんどん効率よく働けるようになります。

そして、男性は家庭進出し、女性は家の中で夫を変えてほしい。夫に遠慮して家事も育児も自分でやっている部下も多いですが、女性自身が夫を変えていかないと、家庭も職場も変わらないと思います。男性の働き方を変え、子育てや家庭に携わっている男性を増やしていくのは女性自身です。男性を改革することで、変わらない日本企業が家庭から変わると思っています。



【講師】
朝日新聞社総合プロデュース室
プロデューサー/AERA前編集長

はまだ けいこ
浜田 敬子 さん

第2部 スペシャル対談

「カギはオーナーシップにあり～だから、我が社は女性社員に期待する～」 — 浜田 敬子さん × 松石 禎己さん —

《松石》管理職のレベルは高くないといけません。低いと会社全体も低くなります。リーダーは女性社員だけでなく若い社員も全体的に伸びるように、それぞれに対応していくべきではないかと思っています。そして、相手のことを思いやり、それぞれの個人の能力や個性を尊重することが大事だと思っています。

そして、働く女性たちには、まず何事も自分のために頑張してほしいと思います。人のため、会社のためだと思つてもやる気もなくなってしまいますので、自分のために少しずつ考え、一歩ずつでも前進していくしてほしい。そうすれば自然と会社のため、人のため、地域のためにいくのだと考えてもらいたいと思っています。

《浜田》想像力や共感性が高い女性型のリーダーシップはこれからとても大事なことだと思っています。男性は強いリーダーシップの人が多いのですが、女性のリーダーに足りないのは、まとめる力です。社会の多様性に対応するためには、「想像力や共感性」と「強いまとめる力」、この2つを併せ持つといいのではないかと感じます。もっと若いときから決断することを経験し、自分の仕事だけではなく360度見渡せて、助けることができるということがリーダーの一歩だと思つています。

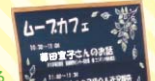


【講師】
株式会社スターフライヤー
代表取締役 社長執行役員

まつし さだみ
松石 禎己 さん

「ムーブカフェ」 開催しました!

平成29年1月21日(土) 10:30～12:00



夢をかなえる
キャリアアップ
講座修了生など、お茶を飲
みながら、ロールモデルの話を聞い
たり情報交換を通して、キャリアア
ップに対するモチベーションの向上や
ネットワークづくりを行いました。



【講師】
株式会社当田屋三越
堀田厚志
婦人・子供営業部
販売担当部長

ふじた のりこ
藤田 宜子 さん

誌上講座【第3回】

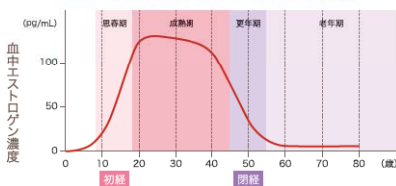
生涯を通じての女性のメンタルヘルス

中高年期編

今回はよいよ最終章です。これまで読んでくださった皆様方最後までお付き合いいただきありがとうございます。

中年期は一般的に更年期にあたり40歳代後半から50歳代後半の閉経をはさんだ前後約10年を指します。個人差がありますが、日本人の平均的な閉経は50歳で、59歳までにはほとんどの女性は閉経し、その後老年期に移行します。女性ホルモンであるエストロゲンは抗うつ作用と抗不安作用があるといわれ、女性ホルモンの低下や変動が女性のメンタルヘルスに大きな影響を及ぼすことは今まで述べてきたとおりです。

女性ホルモン(エストロゲン)の変化



更年期障害は女性ホルモン減少による身体的因子と、性格などの心理的因子、ストレス環境などの社会的因子の3因子が複雑に影響を及ぼし合い、症状を形成します。その症状は個人差があり、ちょっと体調が優れない程度でやり過ごせる人もいれば、日常生活や社会生活に支障をきたすほど症状が出る人もいます。様々な症状がありますが、ほてり・のぼせ、発汗、冷え性などの血管運動神経症状、不眠、抑うつ気分、倦怠感、頭痛・頭重感などの精神神経症状、肩こり、腰痛、手足の関節痛などの運動器・感覚器症状に大別されます。特にこの年代は環境の変化による大きなストレスを抱えやすく、子供の自立による子育ての喪失感、子供や夫との葛藤、それによる自分自身の幼児期の葛藤の再現化、夫婦だけの生活による夫婦間の問題の顕在化、親の介護や死別、自分自身の健康問題や体力・容姿の衰えなど、喪失体験や自己否定感を持ちやすい時期です。そのため更年期はうつ病の発症率も高くなります。

うつ病になると抗うつ薬を中心とした薬物療法が必要となることが多いので、症状が重篤化する前に婦人科で



おくの かなえ
奥野 香苗

小倉記念病院 緩和ケア・精神科 医師
産業医科大学医学部卒業 医学博士
精神保健指定医 日本医師会認定産業医
日本精神神経学会、日本産産衛生学会、
日本老年精神医学会所属

ホルモン療法や漢方薬の相談をしたり、食事・運動療法、ライフスタイルの見直しを心掛けてください。食事療法としては、低カロリー低脂肪食を基本に、骨粗しょう症予防にカルシウム(乳製品や小魚など)やビタミンD(あん肝、紅サケ、干しシイタケ、きくらげなど)、老化予防に効果があるビタミンE(アーモンドやウナギなど)、女性ホルモン作用を持つイソフラボン(大豆など)の摂取がおすすめです。基本的には一過性のものなので、60歳を過ぎて老年期に移行すると症状は自然消滅します。健康管理をするとともに、いろんなことに興味を持ち、趣味を見つけ、新しい生きがいを持つことが大切です。

老年期は人生の集大成です。様々な経験を乗り越え、自分の人生を生き抜いてきたと思える人は自分の人生を唯一のものとして受け入れられています。大きな挫折や後悔があると、もうやり直せる時間がないと絶望し自己嫌悪や人間嫌いに陥りやすいです。身体的な老化に伴う体力、知力の低下を自覚し、社会的な立場からの引退や家族間の役割の変化、親しい人々との死別などを体験するため、うつ病になりやすく、発症した場合は自殺率が高くなります。老年期うつ病では倦怠感や疲れやすさ、頭痛、食欲低下などの身体症状が、落ち込みや不安感などの精神症状より強く出ることが多く、仮面うつ病とも呼ばれます。また、集中力低下に伴い記憶力低下も自覚されるので、認知症との区別が難しい場合もあり、また認知症を発症しやすくなるという報告があります。

女性のライフサイクルは女性ホルモンの影響を受けませんが、その分準備しておくことでコントロールも可能です。どのライフステージでも共通することですが、バランスの良い食事と十分な睡眠、適度な運動でほとんどの人が健康に過ごせると思います。体調不良を感じた時は無理をせずに、ペースダウンし休養を取ることです。また、つらい症状が2週間以上持続するときは、婦人科や心療内科などを一度受診してみてください。

人間は人や社会と適度につながることによって生きやすくなります。孤立せず、また周囲に孤独な人がいればあいさつを交わすことから始めると、相手だけではなく自分自身も豊かな生活を送る一歩になります。常に様々なストレスにさらされている現代社会では、メンタルヘルスの管理がよりよい人生の鍵となることです。

講座・講演会報告

2016年度 女性への暴力ゼロ運動特別講座

ストーカーは何を考えているか?

平成28年11月12日(土) 13:00~15:00 ムーブ 5階 大セミナールーム

ムーブでは、毎年11月12日~25日まで行われる内閣府の「女性に対する暴力をなくす運動」に連動し、「女性への暴力ゼロ運動」を実施しています。今年度は特別講座として、被害をなくし根本的な解決を目指して加害者のカウンセリングを行っているNPOヒューマニティ理事長の小早川明子さんをお招きし、「ストーカーは何を考えているか?」というテーマでお話しいただきました。

被害女性が警察に相談をしているにもかかわらず傷つけられる事件が起っています。講座では「ストーカーの心理レベルでの危険度に合わせた対応」を教えていただきました。危険度は①ハザード(潜在的な危険)②リスク(危険可能性)③デンジャー(危険)④ポイズン(最も危険)の順に上昇します。③デンジャーレベルでは、ストーカーは「誠意を見せる」「責任を取れ」「約束を守れ」「自殺する」と言い、被害者を追い詰めますので、上司など相談できる人間、弁護士、あるいは警察による警告など、第三者が割って入る必要があります。「殺す」の発言があれば④ポイズンレベルです。被害者が避難するか加害者の身柄を拘束するか、とにかく引き離さなければなりません。もし、目の前にストーカーが現れたら、「キャー」と叫ぶとストーカーをさらに興奮させ危険度が上がる可能性が高いので、大変難しいのですが、落ち着いて「話を聞く」と言ったほうが、その場面での危険度は下がるそうです。

質疑応答の時間では、たくさんの方からの質問がありました。参加者の方から「加害者に焦点をあてた話はとてもよかった」「もっと聞きたかった」という感想をいただくほど、大変有意義な2時間でした。



【講師】
NPOヒューマニティ理事長
こばやかわ あきこ
小早川 明子 さん

平成28年度 男女共同参画講座

古美術の世界に魅せられて 女性鑑定士として生きる道

平成28年11月20日(日) 14:00~15:30 ムーブ 5階 大セミナールーム

北九州市出身で、鑑定士として活躍中の安河内眞美さんを講師にお迎えし、ご自身の生き方をありのままに語っていただきました。日本画の写真画像を見ながら、どのような点に注目し鑑定するのかを解説していただいた場面では、会場の皆さんも興味深い様子で、熱心に聞き入っていました。

私が古美術の世界と出会ったのは、25歳の時、姉の嫁ぎ先の刀剣商でアルバイトを始めたのがきっかけでした。日本の古美術品に触れるうちに、美しさ、奥深さ、厚み、温かさなどがだんだんと心に沁み込んできて、この世界に興味を持ち始めました。

縁があり、東京の由緒ある骨董屋さんで本格的な修行をし、そちらで本物をじかに見る機会に恵まれました。美術館でガラス越しに見ると、箱を開けたところから見るのとは、全く違うものです。箱、紐、墨の色、紙など「いいものはこういふものなんだ」ということを、肌で感じる事ができたのが、一番大きな収穫でした。その後、30歳で自分なりの小さな古美術店を六本木に持ったことが、骨董屋としての始まりでした。そして、39歳より「開運!なんでも鑑定団」に出演しています。番組で、特に書画は鑑定が難しいのですが、時にはいいものが出てくるので、まだまだ日本にはいいものが眠っている可能性を感じています。

古美術商は、自分の好きなものを真面目に勉強して、良し悪しを見極めて、お客様に売っていくという誠実さが必要な職業ですが、好きな世界を小さくやっていくという意味で、女性に向いていると思います。鑑定の勉強は、品物を見るべくたくさん見て、「この時代のものはこう」「この作家の筆致はこうである」というのを自分の中にため込んでいくなのですが、それだけでは「目利き」にはなれません。見極めるセンスを持っているかどうか、それをいかに磨いていくか、そのためには、いいものをたくさん見る、そして偽物を見た時に、「ここが違う」と感じ取れる力を養うことが大切だと思います。

骨董の世界、鑑定の世界という、ものを見る世界というのは、果てしないわけですが、日常生活でいろいろなものを目にして感じ取っていくことが、鑑定する力を養っていくことにつながっていく気がしています。



【講師】古美術商
やすこうち まみ
安河内 眞美 さん